

自覚症状のない、卵巣にできるがん

卵巣がん

らんそうがん

症状

初期に自覚症状はほとんどない。進行すると、肥満や妊娠ではないのにお腹が出てきた、腹部に張りがある、頻尿になるなどの症状が。

こんな人は要注意

喫煙者、高脂血症、乳がんや子宮内膜症の経験者

治療

基本は病巣の切除や抗がん剤による治療。

卵巣にできるがん。自覚症状がほとんどなく、有効な検診方法もないため早期発見が難しい。卵巣にできた子宮内膜症からがんになるケースもあるので、経験者は定期的な検査が望ましい。
腹部の違和感を感じたら、早めに婦人科を受診することが大切。

卵巣はこちらにも要注意！

卵巣のう腫

卵巣にできる腫瘍のほとんどがこちら。卵巣の中に水分がたまって腫れている状態。良性で初期は自覚症状もないが、のう腫が大きくなると周囲の臓器を圧迫して頻尿や腹痛といった症状が現れる。注意したいのは大きくなったのう腫の根元がねじれる茎捻転(けいねんてん)で、激しい痛みを生じて手術が必要になることも。卵巣の疾患も子宮全摘となる可能性があることとおきたい。

ちょっと怖い、でも知っておきたい大事なこと

子宮を摘出したら、カラダはどうなるの？

主流は部分切除

かつては病気が見つければ全摘出、ということもありましたが、現在は軽度の病気であれば病巣部分のみを切除する場合がほとんどです。特に若い女性の場合は妊娠・出産の希望を尊重して治療計画が立てられます。卵巣と子宮の大部分が残っていれば、妊娠・出産も可能です。

身体への負担が少ない手術が増加

腹腔鏡やロボットアームといった技術の進歩により、軽度の手術であれば開腹せずに小さな傷だけでできるようになりました。身体への負担が少なく、術後の回復も早くなります。

卵巣を摘出するとホルモンバランスに影響が

卵巣は女性ホルモンを分泌して、毎月の生理などをコントロールしています。そのため、生理のある人が卵巣を摘出してしまうとホルモンバランスが崩れ、ほてりや不眠などの更年期障害と同様の症状が現れやすくなります。とはいえ、卵巣はふたつあるので、片方が残っていれば影響は少ないようです。

子宮の摘出が必要になる可能性のある病気

- 子宮がん ○卵巣がん ○子宮筋腫 ○子宮内膜症
- 子宮腺筋症 ○卵巣のう腫(チョコレートのう腫など) など

20~30代に多い病気
激しい生理痛を伴うことも

子宮内膜症

しきゅうないまくしょう

症状

ひどい生理痛が典型的。腹部の激痛、経血量の増加、不正出血もみられる。病巣の場所によっては生理中の下痢や排便痛、むくみなどの症状も。

こんな人は要注意

生活習慣が乱れている人、初潮が早かった人など。

治療

生理になると病気が進行するため、ピルなどでホルモン量を調節することが多い。妊娠の妨げになる場合や、悪化して他の臓器と癒着している場合などは切除手術をする。

子宮の内側を覆う内膜が、子宮以外の場所にできてしまう病気。子宮内部と同じようにホルモンの影響を受けて増殖と剥離を繰り返すが、経血がはがれ落ちて排出されずにたまっていく。たまった経血が古くなると、「チョコレート」のう腫と呼ばれる溶けたチョコレートのような状態に。経血がたまるにつれて症状は悪化し、痛みや周りの臓器との癒着を引き起こす。子宮内や卵巣、腹膜など様々な場所できり、場所によっては不妊の原因になることも。

子宮にできる良性の腫瘍
生理がある年代の3割にあるとも

子宮筋腫

しきゅうきんしゅ

症状

主な症状は月経過多や不正出血、貧血、腰痛など。筋腫ができる場所によっては膀胱を圧迫して頻尿や便秘も。

治療

良性腫瘍なので、小さく症状もない場合焦って切る必要はない。妊娠の妨げになる場合、排尿や排便に支障がある場合、他の臓器に癒着している場合などは薬物療法や切除手術が検討される。

女性ホルモン(エストロゲン)の影響で、子宮の筋肉が増殖してコブのような病気。生理のある時期の病気で、一般的に、閉経すると筋腫も小さくなる。筋腫自体は良性だが、できる場所によっては不妊や流産、早産の原因に。

VOICE

「まさか子宮の病気とは」という人も

健康診断で子宮頸がんが判明。不正出血が気になってはいたけど、**がんとは思わなかった**。(40代・子宮頸がん)

会社の健康診断で**貧血**と診断され、体内で出血をしている可能性がある、女性は子宮からの出血の可能性が高い、と指摘され**精密検査**になった。(30代・子宮内膜ポリープ)

ホルモン剤を飲む治療をしたが、その影響で、急にのぼせたりといった**更年期障害に似た症状が出てつらかった**。(40代・子宮筋腫)